

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161		
法人名	医療法人忠友会		
事業所名	グループホーム武田の里		
所在地	山梨県韮崎市神山町北宮地8		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護・居宅介護支援事業所などを併設しています。自然に囲まれた環境のため住宅が少なく、地域住民との交流は少ないですが、多機能な事業所、また医療法人としての特性を活かし、日々のケアに努めています。利用者様の「その人らしさ」を大切にし、入居されてもご自宅と同じように自分らしい自由な生活が送れるように職員一体となって取り組んでおります。近年においてはグループホームで最期を迎える方も増えており、併設診療所とも連携しながら看取り介護にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は釜無川の西沿いに位置し、周囲には病院・学校・工場などが点在するが、比較的閑静な場所である。職員は利用者に信頼されており、一対一でゆっくり話を聞いて欲しいという利用者も多く、その思いに対応していることが伺える。月二回は併設診療所の主治医が利用者全員の健康状態の確認をするため往診している。併設診療所以外の市内の病院とも関係性を築き、いざという時はそれぞれの専門の医師に診てもらえる体制ができています。防災に対する意識も高く、水害・火災・地震にそれぞれどのように対応するか、十分考慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティングなどを通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、その人らしく暮らせるように支援している。職員間でも雑談の中でも何がその人らしいのか、ということについては常に話題に出ている。理念がケアに反映されているか確認し合っている。	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティングなどを通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、その人らしく暮らせるように支援している。職員間でも雑談の中でも何がその人らしいのか、ということについては常に話題に出ている。理念がケアに反映されているか確認し合っている。	「その人らしく生活できるよう、お手伝いさせていただく」という理念を玄関・ユニットごとの共有スペースに掲示している。 一人ひとりへの対応については、記録ノートに残すことで申し送りができており、日頃からスタッフ間の会話でも共通認識ができています。会議ではその内容を振り返り、再認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前までは地域の福祉祭りに参加したり、図書館に通う方がいたり、学生や障害者施設からの職場体験なども受け入れをしていた。コロナ対策で外部との交流が難しくなりましたが、近隣の学生向けの認知症講座など依頼があればおこなっている。	以前までは地域の福祉祭りに参加したり、図書館に通う方がいたり、学生や障害者施設からの職場体験なども受け入れをしていた。コロナ対策で外部との交流が難しくなりましたが、近隣の学生向けの認知症講座など依頼があればおこなっている。	利用者が参加していた行事や外出も、コロナの影響で自粛している。現在は事業所周辺の散歩の際に近所の方と挨拶を交わす程度である。 学生等の職場体験も活発に受け入れていたが、現在は外部からの問い合わせもほとんどなく休止している。 依頼があれば、職員が講師として認知症講座などを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市でおこなっている認知症ネットワークの会議や上記のように認知症サポーター講座などに協力しながら、地域へも認知症の理解が浸透するようにお手伝いさせていただいている。	市でおこなっている認知症ネットワークの会議や上記のように認知症サポーター講座などに協力しながら、地域へも認知症の理解が浸透するようにお手伝いさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険担当、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。参考になる意見は取り入れている。コロナ禍においては集まるのが難しい面があるため、書面にて報告をしている。以前は会議内で地域の困り事などについて有意義な話し合いができていた。	市の介護保険担当、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。参考になる意見は取り入れている。コロナ禍においては集まるのが難しい面があるため、書面にて報告をしている。以前は会議内で地域の困り事などについて有意義な話し合いができていた。	二か月に一回、書面にて報告するかたちで運営推進会議を行なっている。以前は家族の代表者も参加していたが現在は来所が困難であり、家族とは電話で話す機会が多いため、要望を聞き取り運営に生かすようにしている。面会についての要望が多く出され、現在は恣意的な面会を行うなど工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について市から相談をもらい入居に至るケースも多く、また事業所からも介護に困難な部分がある方に関しては随時相談させていただいており、関係は良好に保っている。地域ケア会議などにも参加することで、連携を図っている。	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について市から相談をもらい入居に至るケースも多く、また事業所からも介護に困難な部分がある方に関しては随時相談させていただいており、関係は良好に保っている。地域ケア会議などにも参加することで、連携を図っている。	コロナ前は市町村と連携して研修を毎月行っていた。最近も年4回ほどは開催している。 市が主導する地域ケア会議はその都度議題があり、それに伴い専門家などメンバーを集め開催している。 研修、相談支援など市と事業所が連携して認知症の方への理解や支援に熱心に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のための施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している(ただしコロナ対策もあり、外部の方の出入りについては入り口での確認をさせていただいている)。身体拘束やスピーチロックもしないよう、職員間で声を掛け合うように心がけている。定期的に身体拘束禁止委員会を開き、現状確認している。	夜間は防犯のための施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している(ただしコロナ対策もあり、外部の方の出入りについては入り口での確認をさせていただいている)。身体拘束やスピーチロックもしないよう、職員間で声を掛け合うように心がけている。定期的に身体拘束禁止委員会を開き、現状確認している。	夜間以外、出入りは自由であり、コロナ以前はご家族も自由に出入りしていただいていた。コロナ対策として入口で検温等確認をしてから入っていただいている。 職員の入職時に、スピーチロック等身体拘束に関する研修を実施している。また、日頃から気付いた時に職員間でも注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。スタッフから、ではなくご家族であったり、なんらかの疑わしいケースに遭遇した場合には、地域包括支援センターに報告や相談するようにしている。	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。スタッフから、ではなくご家族であったり、なんらかの疑わしいケースに遭遇した場合には、地域包括支援センターに報告や相談するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業などを利用している方や、今後成年後見制度を活用する予定の方もおり、随時利用している。	日常生活自立支援事業などを利用している方や、今後成年後見制度を活用する予定の方もおり、随時利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面及び口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。	書面及び口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員などに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々話をする時間を作っている、ご家族とは面会の機会が少なくなりがちなので、電話や手紙などで様子を伝えたり、意見を求めている。直接言いづらい内容は併設事務所に伝えてもらったり、無記名で投書できるボックスを用意している。実際に要望があったことについては、可能な限り対応している。	利用者とは日々話をする時間を作っている、ご家族とは面会の機会が少なくなりがちなので、電話や手紙などで様子を伝えたり、意見を求めている。直接言いづらい内容は併設事務所に伝えてもらったり、無記名で投書できるボックスを用意している。実際に要望があったことについては、可能な限り対応している。	利用者の希望は普段の会話の中で汲み取るようにしている。職員はあえて担当制にはせずに、全ての入居者の状況を把握し情報共有できるようにしている。ご家族の要望に対しては、それぞれの内容を聞き入れて対応している。ここ最近面会は制限しているため、電話で状況を説明したり、写真付の手紙を送ったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに限らず普段からスタッフの要望を随時確認するようにし、必要な事柄については上司に伝え、会社全体で改善できるように相談を行っている。法人全体での会議の際にも、事業所からの要望などを伝え、会社として改善できそうなことについては対応してもらっている。	ミーティングに限らず普段からスタッフの要望を随時確認するようにし、必要な事柄については上司に伝え、会社全体で改善できるように相談を行っている。法人全体での会議の際にも、事業所からの要望などを伝え、会社として改善できそうなことについては対応してもらっている。	日頃から職員の意見や要望を聴くようにしている。施設の設定や勤務体制、処遇などについてすぐにはできない事は速やかに対応し、それ以外は3ヶ月に1回、法人全体での会議に管理者が出席するため、そこで職員の要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで行けるように配慮している。	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで行けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症介護実践者研修なども勤めている。外部での研修に参加しづらいスタッフについては、内部研修などで知識を深められるようにしている。	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症介護実践者研修なども勤めている。外部での研修に参加しづらいスタッフについては、内部研修などで知識を深められるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会、ケアマネ同士の集まりや地域ケア会議などを通じて交流を図っている。直接、対面できる機会はコロナ対策で回数は減ってしまっているものの、電話などで各施設との交流を持つようにしている。	市の活動や県のグループホーム協会、ケアマネ同士の集まりや地域ケア会議などを通じて交流を図っている。直接、対面できる機会はコロナ対策で回数は減ってしまっているものの、電話などで各施設との交流を持つようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて確認している。入院中や他施設からの移行を希望されている方は直接様子を見に行かせていただいている。入居してからもその人らしく生活が継続できるように支援している。	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて確認している。入院中や他施設からの移行を希望されている方は直接様子を見に行かせていただいている。入居してからもその人らしく生活が継続できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても上記のような対応を行っている。本人と家族のニーズとに違いがある場合には、お互いに納得ができるように調整を行っている。	ご家族に対しても上記のような対応を行っている。本人と家族のニーズとに違いがある場合には、お互いに納得ができるように調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって必要な支援については必ず確認を行っており、グループホーム以外の外部のサービスが必要な方については、活用できるよう支援している。	その人にとって必要な支援については必ず確認を行っており、グループホーム以外の外部のサービスが必要な方については、活用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	元気な方には掃除や食器の片付けなど家事の手伝いをさせていただくことで、役割分担を行っている。動作が難しい方でもその人に何かできることはないか、目標や生きがいを持てるように随時検討している。	元気な方には掃除や食器の片付けなど家事の手伝いをさせていただくことで、役割分担を行っている。動作が難しい方でもその人に何かできることはないか、目標や生きがいを持てるように随時検討している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	受診などにはご家族も同行してもらうことで本人との 関係が途切れないようにしている。コロナ対策もこれ までのように自由に外出してもらったり、外泊をして もらうことができなくなってしまったが、中でもご家族 にできることについては無理のない範囲で協力して いただいている。	受診などにはご家族も同行してもらうことで本人との 関係が途切れないようにしている。コロナ対策もこれ までのように自由に外出してもらったり、外泊をして もらうことができなくなってしまったが、中でもご家族 にできることについては無理のない範囲で協力して いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策との兼ね合いもあるが、馴染みの美容院に 行けるように手配したり、窓越しなどで面会できるよ うに努めている。なかなか以前通りとはいかない面はあ るので、散歩をしたり、受診などの際にドライブなどが できるように配慮している。	コロナ対策との兼ね合いもあるが、馴染みの美容院に 行けるように手配したり、窓越しなどで面会できるよ うに努めている。なかなか以前通りとはいかない面はあ るので、散歩をしたり、受診などの際にドライブなどが できるように配慮している。	コロナ禍であるため、美容院は訪問美容に切り替えて いる。行きつけの美容院に問い合わせに来てもらうこ ともある。併設のデイサービスに訪問理容が来ていて、そ ちらを利用する方もいる。 面会は窓越しであったり、訪問者に外に居ていただき、 二階から会話をする等、工夫して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	仲の良い方と過ごせるように座席の配置を工夫したり 、座談できるスペースを設けている。	仲の良い方と過ごせるように座席の配置を工夫したり 、座談できるスペースを設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時折、様子をうかがったり入院な どをした場合には可能な範囲で面会などに行くよ うにしている。	サービス終了後も時折、様子をうかがったり入院な どをした場合には可能な範囲で面会などに行くよ うにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら意向 の確認をしている。意志の疎通が難しい方につい ては、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、本人 本位な支援がおこなえるよう配慮している。引継ぎノ ートなどを活用しながら、スタッフ全員が思いを理解 できるように工夫している。	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら意向 の確認をしている。意志の疎通が難しい方につい ては、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、本人 本位な支援がおこなえるよう配慮している。引継ぎノ ートなどを活用しながら、スタッフ全員が思いを理解 できるように工夫している。	個別で話したいことがある際は、居室で話したり、夜勤 で時間が取れる際に話を聞いている。ゆっくりと思いを 聞き取り、意向があれば引継ぎノートに記録して他の職 員と共有している。 言葉で伝えられない方の場合は、ご家族から聞いて いた利用者の話から推測して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前にご自宅を訪問するなどし、入居してからも それまでの生活習慣が大きく変わることがないように 支援している。施設の決まりを強制しないように努め ている。	入居前にご自宅を訪問するなどし、入居してからも それまでの生活習慣が大きく変わることがないように 支援している。施設の決まりを強制しないように努め ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居者の状態は日々違っているため、画一的な支援 にならないようその日その時の状況に応じて対応し ている。	入居者の状態は日々違っているため、画一的な支援 にならないようその日その時の状況に応じて対応し ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	スタッフだけでなく必要に応じて医師や作業療法士と 相談し、本人にとって最適な介護計画を作るよう心 がけている。計画以外にも普段から最適なケアにつ いては日々検討をおこなっている。3ヶ月に1回モニタ リングはしているが、他にも随時話し合いをおこない、軽 微な変更はその場で対応している。	スタッフだけでなく必要に応じて医師や作業療法士とも 相談し、本人にとって最適な介護計画を作るよう心 がけている。計画以外にも普段から最適なケアにつ いては日々検討をおこなっている。3ヶ月に1回モニタ リングはしているが、他にも随時話し合いをおこない、軽 微な変更はその場で対応している。	入居時に作成した介護計画に変更がなければ、3か月 後に見直している。改善点があれば都度見直している。 併設されている病院があるため、医師・作業療法士に 相談しやすい環境である。 3ヶ月に1回のモニタリング以外にも常に状況に応じた 対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録やその他連絡ノートは出勤時に各 スタッフが必ず目を通した上で申し送りをし、情報共有 している。	日々の個別の記録やその他連絡ノートは出勤時に各 スタッフが必ず目を通した上で申し送りをし、情報共有 している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の訪問診療、介護用品の利用なども含めて、グループホーム内部でのサービスだけで終わるのではなく、その人にとって柔軟な対応をするように心がけている。	医師の訪問診療、介護用品の利用なども含めて、グループホーム内部でのサービスだけで終わるのではなく、その人にとって柔軟な対応をするように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自立支援事業の利用などを行っている。コロナで難しくなりましたが、それまでは地域の図書館の利用などを行っている方もいたので、機会があればそうしたことも再開していけると良いと考えている。	地域の自立支援事業の利用などを行っている。コロナで難しくなりましたが、それまでは地域の図書館の利用などを行っている方もいたので、機会があればそうしたことも再開していけると良いと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所もあるが主治医の変更を強制したりせず、別の病院の医師とのやりとりも頻繁におこない、認知症の専門医ともたびたび連携を取りながら、必要時には受診の同行もおこない、安心して過ごせるように支援している。これまでの関係性もあり、地域の医療機関とも良好な関係を保っている。	併設診療所もあるが主治医の変更を強制したりせず、別の病院の医師とのやりとりも頻繁におこない、認知症の専門医ともたびたび連携を取りながら、必要時には受診の同行もおこない、安心して過ごせるように支援している。これまでの関係性もあり、地域の医療機関とも良好な関係を保っている。	これまでのかかりつけ医の利用と併設診療所の利用は半々である。月二回は併設診療所の主治医が利用者全員の健康状態の確認をするため往診している。併設診療所以外の市内の病院とも関係性を築き、いざという時はそれぞれの専門の医師に診てもらえる体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持ったスタッフもいるほか、併設診療所の看護師も協力してくださっており、専門的な体調管理に努めている。緊急時には診療所の医師もすぐに駆けつけるようにしていただいている。	看護師資格を持ったスタッフもいるほか、併設診療所の看護師も協力してくださっており、専門的な体調管理に努めている。緊急時には診療所の医師もすぐに駆けつけるようにしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は様子について連携室や看護師と適宜やりとりしながら、現在の状態を把握できるようにしている。研修などで顔を合わせることも多いので、各病院の看護師とも良好な関係は築いている。	入院中は様子について連携室や看護師と適宜やりとりしながら、現在の状態を把握できるようにしている。研修などで顔を合わせることも多いので、各病院の看護師とも良好な関係は築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りの指針については契約時に全員に説明したうえで、そのときがきたら再度、医師も交えて終末期のケアの方針について家族の意向も踏まえて確認するようにしている。医療法人であるため、看取り希望される方には診療所の医師がかかりつけ医になって対応している。	重度化、看取りの指針については契約時に全員に説明したうえで、そのときがきたら再度、医師も交えて終末期のケアの方針について家族の意向も踏まえて確認するようにしている。医療法人であるため、看取り希望される方には診療所の医師がかかりつけ医になって対応している。	契約の際に重度化・看取りの説明はしているが、入居者の状態が終末期を迎えた段階で再度、ご家族、医師を集め、看取りに向けての話し合いを行う。職員の中に看護師が在籍しているため、日頃の体調変化への対応もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい場合には併設診療所の医師・看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい場合には併設診療所の医師・看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。近隣住民にもいざというときのお願いはしている。災害時(台風の際)などには消防署からも電話をくださり、相談の元で適切に避難誘導することができた。	定期的に防災訓練を行っている。近隣住民にもいざというときのお願いはしている。災害時(台風の際)などには消防署からも電話をくださり、相談の元で適切に避難誘導することができた。	近くに河川があるため、水害には常に意識している。近くの学校が避難場所にはなっているが、消防署の判断で二階へ移動する方が安全であるということだった。夜間を想定した訓練は職員2名と利用者という状態でやっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけないような声かけを行っている。居室にうかがう際にもノックをしたり、声をかけてから入室するようにしている。お名前を呼ぶ時は名前で呼ぶようにしている。また、個人情報に関する書類は別室に保管し、他者に見られないように気をつけている。	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけないような声かけを行っている。居室にうかがう際にもノックをしたり、声をかけてから入室するようにしている。お名前を呼ぶ時は名前で呼ぶようにしている。また、個人情報に関する書類は別室に保管し、他者に見られないように気をつけている。	ノックをしてからの入室、苗字での呼びかけ(同姓の場合のみ下の名前)など、基本的な事柄は全職員が実践できている。オムツの交換は居室で行い、他の利用者にも気づかれないよう配慮している。コロナ禍でマスクをしているため表情での意思疎通が困難な場合があり、言葉かけにはより注意している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの方針、その日の過ごし方について一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方の場合には、その方の立場になって考えるよう心がけている。	ケアの方針、その日の過ごし方について一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方の場合には、その方の立場になって考えるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣が全員違うことは当たり前と考えているので、自由に生活を送れるよう支援している。画一的なレクなども強制することなく、一人ひとりがその人のペースで生活している。	生活習慣が全員違うことは当たり前と考えているので、自由に生活を送れるよう支援している。画一的なレクなども強制することなく、一人ひとりがその人のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んでいただいたり、ほしい物があるときにはご家族にも協力していただきながら、その人らしい姿で過ごせるよう配慮している。	着たい服をご自身で選んでいただいたり、ほしい物があるときにはご家族にも協力していただきながら、その人らしい姿で過ごせるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを探して用意させていただいたり、出来る方には配膳や片付け、調理の補助などをお願いしている。ご家族にもそれぞれが好きな物を時々買ってきていただいている。	食べたいものを探して用意させていただいたり、出来る方には配膳や片付け、調理の補助などをお願いしている。ご家族にもそれぞれが好きな物を時々買ってきていただいている。	平日の昼間は併設のデイサービスで作った食事を提供している。平日朝・夕、土日の食事は職員が作っているため、利用者の希望をメニューに取り入れたり、行事食やおやつ作りも利用者に希望を聞いて決めている。食事の準備や片付け等利用者の出来る事は一緒にを行い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日に食べた物、水分量などを記録し医師とも相談しながら、栄養不足や脱水が起きないように気をつけている。普通の食事形態が難しい方にはきざみや、ミキサー食などでの対応もしている。	その日に食べた物、水分量などを記録し医師とも相談しながら、栄養不足や脱水が起きないように気をつけている。普通の食事形態が難しい方にはきざみや、ミキサー食などでの対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、入れ歯の洗浄は毎日おこなっており、自分ですることが難しい方には介助をおこなっている。	歯磨き、入れ歯の洗浄は毎日おこなっており、自分ですることが難しい方には介助をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がない方には時間で誘導を行っている。一時的に身体機能が低下しオムツを利用していた方でも、回復してきたときには外せるようにしている。また夜間はトイレまで間に合わないという方には、お部屋にポータブルを設置し安全に使用していただいている。	尿意がない方には時間で誘導を行っている。一時的に身体機能が低下しオムツを利用していた方でも、回復してきたときには外せるようにしている。また夜間はトイレまで間に合わないという方には、お部屋にポータブルを設置し安全に使用していただいている。	排泄記録表を元に個々に合わせた時間で排泄誘導を行っている。オムツを利用している方も、できる限りトイレでの排泄、リハビリパンツへの移行が出来るように支援している。ポータブルトイレは居室での置き場にも十分注意し、利用者が混乱しないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤だけに頼るのではなく、ヨーグルトなどの乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れることで便秘予防につなげている。	薬剤だけに頼るのではなく、ヨーグルトなどの乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れることで便秘予防につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、スタッフが一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外は希望に沿った日、時間に行えるように心がけている。好みのボディソープやシャンプーがある方は施設の物を強制せず、持参していただいている。	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、スタッフが一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外は希望に沿った日、時間に行えるように心がけている。好みのボディソープやシャンプーがある方は施設の物を強制せず、持参していただいている。	入浴は概ね週二回になっているが、希望があれば職員が対応できる範囲で、制限は授けず自由に入っている。個人の好みのボディソープ、シャンプーや化粧水など持ち込んで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間などルールとして定めていないため、それぞれのペースで入居前に近い状態で眠れるよう支援している。また、安眠用に心地の良いマットレスを取り入れている。	起床、就寝時間などルールとして定めていないため、それぞれのペースで入居前に近い状態で眠れるよう支援している。また、安眠用に心地の良いマットレスを取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡し、あるいは介助することで飲み忘れがないよう確認している。飲んでいる薬の種類、量などについてはホームの看護師と一緒に全員で確認するようにしている。	一人ひとり手渡し、あるいは介助することで飲み忘れがないよう確認している。飲んでいる薬の種類、量などについてはホームの看護師と一緒に全員で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に同じレクを強制しないようにし、一人ひとりが違った楽しみ、価値観を持っていることを理解し、入居前にしていた楽しみが継続できるよう支援している。	全員に同じレクを強制しないようにし、一人ひとりが違った楽しみ、価値観を持っていることを理解し、入居前にしていた楽しみが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策のために気軽に出かけることは難しくなりましたが、それ以前は近隣のお店にみんなで食事に行ったり、あるいは家族と食事に出かける方もいた。そういったことがまた行えるようになると良いと思う。現在は時々散歩に出たり、庭でお茶を飲むなどして気分転換している。	コロナ対策のために気軽に出かけることは難しくなりましたが、それ以前は近隣のお店にみんなで食事に行ったり、あるいは家族と食事に出かける方もいた。そういったことがまた行えるようになると良いと思う。現在は時々散歩に出たり、庭でお茶を飲むなどして気分転換している。	コロナ以前は家族と外出したり、職員とともに外食に出掛ける等の機会は多かったが、現在は庭でお茶を飲んだり、近所を散歩するなど出来る範囲で気分転換している。お花見の季節には車の中から見る機会をつくり、日常の移動の際にも景色の良い場所を通るなど工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の可能性も考え、大金については事務所で管理させていただいているが、買い物かぎしたいとき、ほしいものがあるときには相談していただき、その中から買い物ができるように支援している。	紛失の可能性も考え、大金については事務所で管理させていただいているが、買い物かぎしたいとき、ほしいものがあるときには相談していただき、その中から買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかけたい方には自由に使っていたり、手紙を書く時にはお手伝いさせていたり、スタッフが投函してさしあげたりしている。	電話がかかけたい方には自由に使っていたり、手紙を書く時にはお手伝いさせていたり、スタッフが投函してさしあげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるよう支援している。飾りつけを手伝ってもらうこともある。	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるよう支援している。飾りつけを手伝ってもらうこともある。	基本的に掃除や飾りつけは職員が行うが、本人の希望があれば、掃除機掛け、ベランダの植物への水やりなど無理にならない程度で手伝ってもらい、居心地の良い環境づくりを協力して行っている。最近では正月の飾りつけを利用者も協力して行った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになることも仲の良い方と過ごしたいことも、本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごせることは当然のことであると考えている。	独りになることも仲の良い方と過ごしたいことも、本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごせることは当然のことであると考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む家具の制限もしていないので、家で使っていた家具やテレビ、好きな本、写真などを自由に持ってきていただいている。	持ち込む家具の制限もしていないので、家で使っていた家具やテレビ、好きな本、写真などを自由に持ってきていただいている。	備え付けの物は、ベッド・クローゼット・エアコン・防炎カーテンであり、その他の物は利用者の持ち込みである。テレビ・衣装ケース・位牌・写真など、持ち込んでいる物は様々である。畳の部屋を希望される方も居り、床に防炎の畳を敷いていたケースもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。手すりなども活用していただき、出来るだけご自身で歩けるように支援しているほか、車椅子使用の方であっても自分で操作できる方にはおこなっていただいている。	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。手すりなども活用していただき、出来るだけご自身で歩けるように支援しているほか、車椅子使用の方であっても自分で操作できる方にはおこなっていただいている。		